平成26年度の鶏卵品質検査結果
（一社）東京都卵業協会　検査部

		普通卵 Lサイズ	特殊卵
平均卵重		65.8g	63.1g
ハウユニット平均		70.9	78.8
USDAランク	AA	50.0%	80.0%
	A	37.5%	20.0%
	B	12.5%	0.0%
	C	0%	0%
卵黄色平均		12.4	13.0

平成18年度からの平均卵重、ハウユニット、卵黄色の推移

	平均卵重（g）			ハウユニット平均			卵黄色平均		
	L玉	M玉	特殊卵	L玉	M玉	特殊卵	L玉	M玉	特殊卵
18年度	61.1		—	70.0		74.1	11.2		12.3
19年度	61.5		62.3	69.4		73.8	11.4		12.8
20年度	66.4	61.9	62.8	77.1	75.9	75.1	11.8	11.5	12.2
21年度	—	61.8	62.5	—	73.1	77.4	—	11.5	12.7
22年度	—	60.9	61.9	—	69.6	76.0	—	11.9	12.4
23年度	65.9	—	62.9	68.8	—	72.7	11.8	—	12.9
24年度	65.9	—	62.3	70.8	—	75.2	12.2	—	12.8
25年度	65.9	—	59.9	69.1	—	75.9	12.2	—	12.9
26年度	65.8	—	63.1	70.9	—	78.8	12.4	—	13.0

都卵協の鶏卵品質検査結果

保管状態の違いで品質に差

（一社）東京都卵業協会（山田昇会長）の検査部（鹿島敏正部長）は8月27日、JA全農たまご㈱本社で8月10日に実施した鶏卵品質検査（卵重、ハウユニット、卵黄色）の結果を公表した。

今年の検査では、スーパーで販売されているパック卵だけでなく、鶏卵問屋で保管している箱玉やパック卵も対象に加え、エッグマルチテスタを使って実施した。

平均卵重は普通卵Lサイズが前年比0・1㌘減の65・8㌘、特殊卵が3・2㌘増の63・1㌘。卵黄色の平均は普通卵Lサイズが0・2ポイント増の12・2、特殊卵は0・1ポイント増の13・0。

ハウユニットの平均は普通卵Lサイズが1・9ポイント増の70・9、特殊卵が2・9ポイント増の78・8。USDAランクについては、普通卵LサイズはAA50％、A37・5％、B12・5％で平均がA、特殊卵はAA80％、A20％で平均がAAであった。

購入場所の温度帯は、普通卵Lサイズは冷蔵が3パック、室温が13パック。特殊卵は冷蔵が1パック、室温が9パック。

特殊卵ではすべてのパックで個卵重表示があったが、保証重量表示はなかった。賞味期限は普通卵Lサイズ、特殊卵ともすべてのパックで表示されていた。

鹿島敏正検査部長は「大手スーパーの冷蔵庫で品質管理されているパック卵に関しては、ハウユニットがAA～Aと問題はなかったが、中小スーパーで購入したもので、賞味期限の日付からみて（採卵後）7日以上が経過したと思われるパック卵はハウユニットの平均がBで、品質が低下していた。

鶏卵問屋で保管していた箱玉とパック卵に関しては、20度C、25度C、常温など、保管状態の違いで品質の良しあしが顕著になった。

今年の検査では、鶏卵問屋で保管している箱玉やパック卵の状況も把握でき、有意義であった。当たり前のことであるが、特殊卵や普通卵も温度管理によって品質やハウユニットの低下が顕著であることから、鶏卵問屋での温度管理の徹底が重要な課題であることを改めて痛感させられた」と総評した。

JRA畜産振興事業の調査研究発表会

10月1日に東大弥生講堂

東京大学大学院農学生命科学研究科食の安全研究センターと（公財）全国競馬・畜産振興会は10月1日午後1時10分から、東京都文京区の東京大学弥生講堂・一条ホールで「JRA畜産振興事業に関する調査研究発表会」を開く。講演内容は次の通り。

①家畜に対するアニマルウェルフェアの現状と今後の方向等について＝信州大学農学部食料生産科学科准教授・竹田謙一氏

②農場HACCPの取り組みの現状と今後の推進方向について＝東京農工大学農学部共同獣医学科教授・竹原一明氏

③受胎率低下の現状を踏まえた雄側からの受胎性の改善について＝（一社）家畜改良事業団家畜改良技術研究所開発第一課長・内山京子氏

④牛肉の脂質を中心としたおいしさ評価基準の標準化について＝岐阜県畜産研究所飛騨牛研究部専門研究員・丸山新氏

⑤放射線物質の家畜への影響調査について＝東京大学大学院農学生命科学研究科教授・眞鍋昇氏

⑥畜産物の安全に関する消費者の意識調査等について＝東京大学大学院農学生命科学研究科准教授・細野ひろみ氏

入場無料で定員250人。事前登録は不要。問い合わせは同会業務部畜産振興課（電03・3506・7853）へ。

10月3日に東京で

動物インフルシンポ

動物衛生研究所

㈱農研機構動物衛生研究所は、10月3日午前9時45分から東京都千代田区内幸町のイイノホールで、農研機構シンポジウム「One Healthから見た動物インフルエンザ」を開く。シンポジウムのプログラムは次の通り。

①2014年4月に熊本県において発生した高病原性鳥インフルエンザについて＝動物衛生研究所・金平克史氏

②動物インフルエンザウイルスの人への伝播メカニズム＝中国農業科学院ハルビン獣医研究所・陳化蘭氏

③タイとベトナムにおける豚インフルエンザ＝動物衛生研究所・竹前喜洋氏

④カンボジアにおけるH5N1亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスの家禽から人への伝播＝世界保健機関西太平洋地域事務所（WHO／WPRO）カンボジア・露岡令子氏

⑤WHO's Global Response-Influenza at the human-animal interface＝世界保健機関（WHO）・進藤奈邦子氏